



社員のこころの問題は、職場にさまざまな影響を及ぼします。管理職がその対応を間違えると、トラブルが大きくなってしまいうことも。

そこで、『新・メンタルヘルス実践Book』では、前作で「わかりやすい」とご好評をいただいているシミュレーションゲームはそのままに、新たに3つの事例を追加し、その適切な対応方法を具体的に解説しています。

●B5判 44頁 2色

Amazon カスタマーレビュー

[最初から結論を押し付けずに様々な事例に対する対処を考えていく中で、管理職がメンタルヘルスの対処を学ぶことができるあの名著の、待望の改訂版！](#)

私は船橋市議として、市職員の「ストレスチェック」に関する調査のため、池田氏の他著を読んでそのわかりやすい説明に感銘を受けた。船橋市では職員課が職員のメンタルヘルスに責任を持つが、職員課まかせでよいわけではなく、各部や課の管理職が職員の状態を把握対処する必要がある。他の企業や事業所でも同様に、産業医や労働安全衛生の責任者だけでなく、各部・各課の管理職が職員の状況を把握する必要があるのだろう。

しかし管理職の中には、自らの仕事の領域は詳しいが、心理学・精神医療を学んでいるわけではなく、本書に例示するうつ病・新型うつ・発達障害・人格障害などの実態を知らない人も多いだろう。昔ながらの励まし、復職の促しなどで対処してしまうこと、また（自殺念慮などを）聞かずに放置してしまうことなど不適切な対応をしてしまうことも危惧される。本書では様々なケースに対してすぐに、様々な選択肢の中からスゴロクのように選び考えさせてから最後に結論や説明を述べている。押しつけがましくなく自然に学び発見しながら学ぶことができる。また分量・値段も手ごろで、管理職が抵抗なく

